

社会教育



子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業
請戸芸能保存会 「避難者や被災者と交流して子どもたちが元気を発信」

CONTENTS

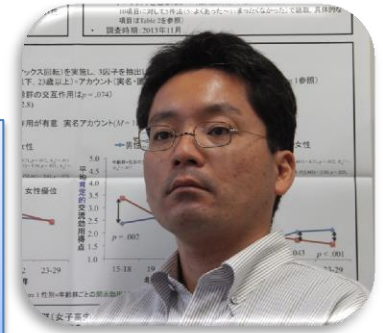
- ◆ 論 説 1
「新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成」
国立大学法人福島大学地域創造支援センター
副センター長・准教授 木暮 照正氏
- ◆ 特 集 2
「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」
＜事例紹介＞
福島県立塙工業高等学校和太鼓部
特定非営利活動法人チームふくしま
- ◆ 輝け！社会教育 5
喜多方市社会教育委員の会議議長 山崎 信子氏
元郡山市社会教育委員の会議議長 國馬 善郎氏
白河市中心公民館
須賀川市立西袋公民館
猪苗代町体験交流館
新地町立福田小学校父母と教師の会
福島市立蓬萊中学校父母と教師の会
白河市立白河第二中学校PTA
さくら子ども教室（相馬市）
田村市学校支援地域本部滝根地域教育協議会
げんき山クラブ（南会津町）
喜多方市立図書館
金田 和枝氏（二本松市）
- ◆ 平成27年度社会教育関係各種受賞者 12
平成28年度福島県社会教育施設行事予定



論 説

「新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成」

国立大学法人福島大学地域創造支援センター
副センター長・准教授 木暮 照正 氏



去る2月27日（土）、福島市内で開催された「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」の成果発表会に参加する機会を得た。平成27年度採択事業（総数22）のうち6事業について、事業代表者から具体的な成果報告があった。すべて大変優れた取り組みであり、子どもたち自身が、被災県の住民でありながら、県内沿岸部から避難してきた被災者を慰問するといった心温まる取り組みや、全国に向けて福島県の復興状況をPRするといった意欲的な取り組みが今回の事業で数多く展開されていたことに感銘を受けた。

子ども期のこのような社会参加経験は、たとえ今すぐには実を結ばないとしても、将来、大人になったときに必ずや貴重な財産となることだろう。この事業は福島県が助成する補助事業であり、どうしても年度内に一定の成果を出すことが期待されるのだが、事業の主役は子どもたちである。短期的な成果だけではなく、長期的な視点に立って子どもたちの成長を見守る姿勢が重要である。

当たり前のことであるが、子どもは成長し、いずれ巣立っていく。この補助事業で支援を受けた取り組みにおいても、数年経過すれば構成メンバーもガラッと変わっていくはずである。長期的な子どもたちの成長に期待を寄せながらも、他方で、構成メンバーが変わっていくなかでも、取り組みの中で子どもたちが築いてきた実績を次の子どもたちに引き継がせ、かつ事業として安定的に継承させていく、という点もやはり大きな課題である。

以上のようなことから、事業を企画立案する大人たちは、ややもすれば子どもたちが間違わないようにレールを敷き、進捗管理をしたがるが、得てして整い過ぎた環境というものは当事者たる子どもたちの自発性や自律性を削ぐきらいがある。大人側が余裕をもち、子どもたちの声に聞き耳を立て、小さな失敗をその都度受け止めながら、子どもたちのやる気をそがぬような体制作りもまた求められる。そのためには大人の側に相当の余裕と忍耐がなければならないであろう。

事業として安定した継承が求められるなかで、最も肝要なことの一つは事業の「経営センス」ではなかろうか。小学生では難しいとしても、中高校生自身に、自分たちが卒業した後も、このような事業が継続的・安定的に運営されていくにはどうしたらよいのかについて深く考えさせるような機会があってもよいのかもしれない。これも子どもたちが大人になったときに必ずや貴重な財産となるはずである。

プロフィール こぐれ てるまさ

2001年10月

福島大学生涯学習教育研究センター助教授

2003年4月 同副センター長

2008年4月

福島大学地域創造支援センター副センター長・准教授

専門：認知心理学、教育心理学、成人教育支援

論文：「大学公開講座における地域成人学習者のニーズ把握に関する一考察 ～学習の方向性に関する動機の視点から～」 福島大学地域創造（第27巻、2015年9月）など



特集 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

東日本大震災及び原子力災害以降、本県の子どもたちは様々な機会に福島を伝える活動を行うなど、復興に貢献しようという想いを高めています。その想いを具現化できる機会を提供することで新たなステージに進み、子どもたちが主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る事業です。

事業1 避難者へ元気を！！

例) 県内の仮設住宅などを継続的に訪問し、避難者と交流して子どもたちが元気を発信し、お年寄りなどを元気にする活動

事業2 一人一人が復興大使！！

例) 風評被害などを経験した地域との交流を行い、地域の復興を考え他県への復興をアピールする活動

事業3 起業体験、ふくしまを発信！！

例) 自分たちの専門性を生かして何ができるかを考え、実践することで県内外にふくしまを発信する活動

福島を伝えたい！ 福島に復興に貢献したい！

同じ苦しみを味わった方々と
助け合って前に進みたい！

避難者の方々に
笑顔になってもらいたい！



日頃の学習の成果を生かして
ふくしまの今を発信したい！

仮設住宅の方々に
元気にしてもらいたい！

全国の方々に私たちが作った
ふくしまの名産品を届けたい！



**自ら考え、行動し、復興に役立つ
社会体験活動をする子どもたち**

<平成27年度採択事業>

- 事業1
 - ① 埼玉工業高等学校和太鼓部「もちつきボランティア」
 - ② 桃見台小学校「花の力で地域を元気にしよう」
 - ③ 請戸芸能保存会「避難者や被災者と交流して子供達が元気を発信する」
 - ④ 駒ヶ嶺小学校学校へ泊まろう実行委員会「駒ヶ嶺小学校 学校へ泊ろう」
 - ⑤ 福田小学校 PTA 「被災地を元気にしよう プロジェクト」
- 事業2
 - ① あいづっこ人材育成プロジェクト実行委員会「会津ジュニア大使～会津の元気を全国に発信～」
 - ② 特定非営利活動法人シャローム「2015年ふくしま・ひまわり子ども大使派遣事業」
 - ③ 福島県PTA連合会「水俣との交流事業」
 - ④ 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎「みんなで農業体験プロジェクト」
 - ⑤ いわき遠野の未来を創る会「遠野の風に未来を乗せて～高校生が汗を流す復興活動と地域づくり～」
 - ⑥ 福島県立福島高等学校「Radiation Project Workshop in Fukushima」
 - ⑦ 動く英語教室プロジェクト「未来ふくしまグローバルリーダー育成プログラム」
 - ⑧ 特定非営利活動法人チームふくしま「震災があったから“こそ”生まれた物語を全国に発信！ひまわり甲子園2016」
- 事業3
 - ① 郡山グリーンカレー愛好会「こおりやまグリーン化大作戦」
 - ② 福島県高等学校教育研究会農業部会「ふくしまから美味しさと元気を発信～ふくしま復興マルシェ～」
 - ③ 一般社団法人 Bridge for Fukushima「福島・中国高校生社会課題解決企画『あいでみ』」
 - ④ 公益財団法人 YWCA YWCA 活動スペースカーロふくしま「福島から考える新しいエネルギー～未来の福島のための自然エネルギーを学ぶプロジェクト～」
 - ⑤ 特定非営利活動法人土湯温泉観光まちづくり協議会「土湯温泉×福島高校SSH部生物班 陸上養殖プロジェクト」
 - ⑥ 特定非営利活動法人はらまち交流サポートセンター「南そうま福幸植樹会」
 - ⑦ 若松商業高等学校「高校生がデザインする地元の美味しいお弁当！」
 - ⑧ 福島県高等学校文化連盟「『復興とこれからの福島』メッセージ」
 - ⑨ 埼玉工業高等学校和太鼓部 「ふくしま復興 PR 演奏埼玉工業高等学校和太鼓部」

事例紹介「餅つきボランティア、および復興PR演奏」を実施して

福島県立塙工業高等学校和太鼓部顧問 中畑 哲 氏

塙工業高校和太鼓部は、福島県教育委員会主催の『子どもがふみだすふくしま復興体験応援事業』を利用させて頂き、二つの活動を行いました。

一つ目は、仮設住宅の住民の方を対象とした『餅つきボランティア』です。6月に会津若松市、10月には福島市、12月は棚倉町で、それぞれ餅つき交流会を行いました。臼を囲む参加者の笑顔は絶えず、互いに大きな声を掛け合いながら、住民の方は子どもたちとふれあい伝統的な知恵を授ける喜びを、そして生徒達は誰かの役に立てることの喜びを、それぞれ感じていたようでした。最初は、杵を握る手元もおぼつかなかった餅つきも、住民の方にコツを教わって各地で行ううちに、今では餅を返すのも生徒たちで出来るようになりました。双葉町の方をご招待した餅つき大会では、ずいぶん上手になったと、“餅つきの師匠”のお年寄りの皆さんからお墨付きを頂き、同時開催の演奏会についても「双葉の曲も演奏してもらって涙が出た。」と、とても喜んで頂くことが出来ました。

二つ目は、全国各地での『ふくしま復興PR演奏』です。夏は、大阪城・清水寺・伏見稻荷・東大寺・鎌倉大仏殿・鶴岡八幡宮、冬は、日比谷公園・上野公園・イクスピアリ・横浜ランドマークタワー・日本太鼓協会と、それぞれ2泊3日の過密日程の中、生徒達は福島の高校生の元気を各地の皆さまに知って頂こうと精一杯演奏を行いました。有名な観光地が会場だったこともあり、海外の方も多くいらっしゃって、国内だけでなく国際的にも福島の復興をPR出来たのではないかと感じています。

どちらの活動についても、演奏を通して元気をお伝えし多くの皆さまに喜んで頂けたこと、そして参加者全員でひとつの事を作り上げていく楽しさを感じる中で、自己有用感や自己肯定感を得たことにより生徒達は内面的に大きく成長できたと思います。こうした経験を心の栄養とし、福島への郷土愛を花開かせ、地域を支える大樹のような人材を育てていきたいと思いますので、今後とも塙工業高校和太鼓部をよろしくお願いいたします。



【餅つきボランティア】



【大阪城での太鼓演奏】

事例紹介 「震災があったから“こぞ”生まれた物語を 全国へ発信！ひまわり甲子園2016」

特定非営利活動法人チームふくしま

2012年から4回目となる「福島ひまわり里親プロジェクト」を通して生まれた物語のプレゼンテーション大会『ひまわり甲子園』（2015年度は、岡山・福岡・京都・長野・千葉・福島で開催。広島・山口で講演会開催）の中で、県内の子が同世代に伝えたい「福島の現状」や「震災から気づいたこと」等の発表と交流を行いました。県代表で参加した子は、自分（福島）を応援する人達に接する体験となり、また、震災が忘れられていることも知り、震災体験を伝えることの重要性を学び、県外から参加した子は、防災の大切さや当たり前のありがたさを実感する機会となりました。

「福島ひまわり里親プロジェクト」は、ひまわりを全国各地でいわば「里親」として育て種を採種し、その種を福島の地で「復興のシンボル」として咲かせることで日本全国と福島の絆を深める活動です。

きっかけは、福島県二本松市の福祉作業所で働く障がい者の為に2011年から始めた雇用対策。特に障がい者の雇用や自立は、震災前も厳しい状況が、震災の影響により仕事が激減。そこで、ひまわりの種のパック詰めを仕事として依頼しました。

種一粒一粒には、「福島と全国を繋ぐ絆を創りたい」「ひまわりをきっかけに福島に足を運んでもらいたい」「障がい者の雇用を守りたい」等様々な想いが込められ、2014年までの4年間で福島を除く46都道府県で累計2万件、約11万人（推計）が参加。2015年も全国から届いたひまわりの種を県内の小・中学校、高校、大学、企業、諸団体等3万力所余りに配布しています。

今後はさらに学校や地域での防災・道徳教育の発展に繋げ、自分の経験を伝えられる子を育むきっかけにしていきます。



【ひまわり甲子園 関西地区大会（京都府京都市）】



【ひまわり甲子園 関西地区大会（京都府京都市）】

輝け！社会教育



社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰、誠におめでとうございます！

喜多方市社会教育委員の会議議長 山崎 信子氏

このたび、平成27年度文部科学大臣表彰社会教育功労者表彰を受賞されました山崎信子様は、平成5年より現在まで23年間にわたり喜多方市社会教育委員として活躍されております。

この間、平成19年より同会議議長及び耶麻地方社会教育委員連絡協議会会長、平成22年度より福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長に就任し、本県社会教育の充実・発展のために御尽力いただいております。

また、これ以外にも、喜多方市議会議員、福島県交通安全母の会連絡協議会会長、(社)全国交通安全母の会連合会会長、喜多方市女性団

体連絡協議会会長、喜多方市男女共同参画審議会会長に就任するなど、現在も多方面において活躍をされております。

これまでの社会教育の実績が評価され、文部科学大臣表彰社会教育功労者表彰を受賞された山崎様、誠におめでとうございます。



社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

元郡山市社会教育委員の会議議長 國馬 善郎氏

平成27年度社会教育功労者の文部科学大臣表彰を賜り、多くの関係者の皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

授賞式では全国受賞者の代表謝辞を述べる機会を与えられ、未曾有の東日本大震災と原発事故に見舞われた福島県や郡山市組織の社会教育委員として活動し、特に子ども達の居場所づくりや健康・体位向上の対策、また、高齢者の心身の保健と安全、余暇活動の推進など、現在も復興・再生に向けて継続的に取り組んでいること、ボーイスカウト日本連盟初代総長の後藤新平氏の「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう」の教訓であることを伝えました。

私は中学時代から青少年団体に参加し、現在も地域住民のためのスポーツ・レクリエーション、ボランティア活動等は、良き人間関係の支えとなり、学ぶものが多いです。

今後も、「自分に何が期待され、何が出来るか」を課題として、家族の理解に支えられ、関係者と連携しながら社会教育の充実発展と、それを基盤とした豊かな人づくり・地域づくりの明るい社会へとできる限り貢献するように励みます。



輝け！社会教育



優良公民館文部科学大臣表彰

白河市中心公民館の活動紹介

白河市中心公民館

白河市中心公民館のクラブ会長会は、文化祭としての習作展と発表会の実行委員会にあたる組織で、昭和60年5月に結成され、現在62クラブ1200名余の会員があります。

クラブ会長会の真骨頂は、今や白河市の夏の風物詩として定着した「しらかわ盆踊り」の運営にあります。

昭和57年、公民館利用者同士の親睦を図ることを目的として公民館駐車場で始まった「公民館盆踊り」は、平成3年の第10回は小峰城三重櫓完成を記念して本丸跡で、第12回からは城山公園芝生広場で、第19回からは駅前イベント広場で、平成15年の第22回からは「しらかわ盆踊り大会」と名称を変え、2日間で6000人が集う一大イベントとなりました。

中心市街地の賑わい創出、盆踊りという伝統行事の保存、さらには戊辰戦争を機に山口県萩市を中心とする10数地区に白河踊りとして伝承されている歴史的事実を後世に伝える重要な役割を果たしています。

32年ぶりの文科省優良公民館表彰は、公民館の教室からクラブへの育成とクラブ会長会の功績が認められたもので、これからも公民館とクラブ会長会が

両輪となって本市の生涯学習の活性化に寄与したいと願っています。



【第1回玄関ポーチを櫓として開催】

優良公民館文部科学大臣表彰

須賀川市立西袋公民館の活動紹介

須賀川市立西袋公民館

西袋公民館では「郷土に誇りを持ち、心豊かで生き生きと輝く人づくり」の構築に向けて、各種事業を開催しています。その中で、公民館と学校と地域が連携して活動している青少年教育「ジュニアボランティア養成講座」をご紹介します。

平成20年から、中学生対象の講座として公民館事業の中で、主に公民館開催事業や市の開催イベントでのボランティア活動に取り組んでいます。中学校の協力を得ながら集約をし、開講式では、市の観光交流課長や様々なトップアスリートを講師として迎えての講演会に参加し、モチベーションを高めながら活動に取り組む姿がみられます。また、震災後は、ライフライン不通でも対応できる、野外炊飯の体験をしています。アンケートでは、「役

割を果たせて達成感があった」「人との関わり、地域行事の大切さを学んだ」などの感想があり、また、後輩へのメッセージやエールを残し続けることで、参加する生徒の増加となり、繋がっていることの大切さを感じています。

今後も、学校では体験出来ない事業として取り組み、公民館が子ども達と地域の人との交流の拠点として活用され、次世代に繋いでいけるような人材の育成に努めて参ります。



【円谷幸吉メモリアルマラソン大会】

輝け！社会教育



優良公民館文部科学大臣表彰

猪苗代町体験交流館の活動紹介

猪苗代町体験交流館

猪苗代町体験交流館（通称「学びいな」）は平成21年に開館し、今年で8年目を迎えました。従来の町公民館の事業を引き継ぎながら新たに町内の文化団体等で構成される「猪苗代町体験交流協会」との官民協働体制となって、よりパワーアップした施設となりました。

学びいなの運営理念は、「町民の方々の声を反映させ、町民生活に密接した事業運営を目指す」ことです。町体験交流協会の意見を踏まえ、PDCAサイクルによる事業評価・事業改善を行いながら各種講座・教室を開催しております。

今年3月に文部科学省より優良公民館として表彰されましたが、町体験交流協会の方々をはじめ、町民の皆様と共に受賞したと感じております。

特に、各学習者の成果の発表の場である「学びいな夏祭り・秋祭り」は毎年趣向を凝らして町のイベントとしても定着しておりますが、単なる発表の場のみでなく、町民全体が体験や鑑賞を通して生涯学習や文化に対する意識を高め、さらに学ぼうとする意欲の高揚に大きな成果を挙げていると評価されました。

今後も運営理念を忘れず、町民の方々と共に歩んでいきたいと思っております。



【子どもクッキングの様子】

優良PTA文部科学大臣表彰

新地町立福田小学校父母と教師の会の活動紹介

新地町立福田小学校父母と教師の会

「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞することができ、大変光栄に感じております。

本PTAは、会員数は少ないものの団結力の強さが魅力のひとつです。このため、年間を通して様々な活動を、子どもたちに寄り添った形で精力的に実施しています。

春の運動会では、親子種目の他に地区対抗によるPTA種目で優勝カップを争い、夏と秋に行われる講演会では子育てに関する研修を会員相互で深め、奉仕活動では学校環境の整備や教育活動資金のための廃品回収などを行っています。

様々な活動の中でも子どもたちが一番楽しみにしているのは「かんらんまつり」です。

これは、学習発表会終了後に行われ、当日は保護者が準備した多くの出店が立ち並びます。

震災があった年も、本校体育館に避難した方々や仮設住宅に避難された方々を元気づけようと、本校PTAが中心となり、新地町商工会青年部の協力を得ながら開催しました。当日はあいにくの大雨にもかかわらず多くの方々が来場し、皆口々に「元気をもらった。ありがとう。」と話していたのが印象的でした。

今後も、子どもの幸せを中心に考え、PTAが一丸となり、地域が元気になる活動を目指してまいります。



【かんらんまつりの様子】

輝け！社会教育



優良PTA文部科学大臣表彰

福島市立蓬萊中学校父母と教師の会の活動紹介

福島市立蓬萊中学校父母と教師の会

本会は昭和54年に設立し、現在会員数369名の組織です。本校は、創立37年の比較的新しい学校ではありますが、保護者・地域の方々の学校に対する思いは強く、PTA活動に積極的に取り組んでいます。その中からPTA活動の様子を紹介します。

一つ目は、生徒の交通安全・防犯対策のため、PTA会員、地域の方々と教職員が一緒に行っている巡回パトロールです。

この活動は、生徒の下校にあわせて月1回程度行っています。公共施設やショッピングセンターでの生徒の様子を見たり、地域の危険箇所の確認を行ったりしています。

二つ目は、PTAによるボランティア活動が盛んなことです。校門前で行われる朝のあいさ

つ運動ボランティアや学校図書の整理・修繕、図書室の掲示などを行う図書ボランティアなど保護者が積極的に学校に関わっています。

また、その活動の様子を年3回発行しているボランティア通信で会員全員に広報しています。

今回、優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。これを機にPTAの役割を再認識し蓬萊地区の子ども達のためにさらに充実した活動を行っていきたいと思います。



【巡回パトロール】



【ボランティア活動】

優良PTA文部科学大臣表彰

白河市立白河第二中学校PTAの活動紹介

白河市立白河第二中学校PTA

白河第二中学校の特色あるPTA活動として、二中校区独自で行っている活動があげられます。

まず、大雪に対する除雪マニュアルの作成があります。地域の自治体や消防団などの協力を得て、白河第二中学校だけでなく校区全体の通学路の安全を確保し、子どもたちの安全と安心を確保する活動です。地域との連携により積極的に協力してくださる方が多数おり、大変感謝しております。

次に行っている活動としては、「白河市ノーメディア推進協議会」が設置され、活動を進めて来ている「ノーメディア」活動があげられます。現在では、その年代におけるメディアとの付き合い方に移行しつつありますが、二中校区として、子どもたちへの夏休みの宿題として、

ノーメディアに対するポスターや、標語の作成をお願いし、PTAによる審査を行い、優秀な作品に表彰を行っています。子どもたち自身で作品を作ることから、メディアに対する意識を持ってもらうのがねらいで行っています。

昨年は、白河第二中学校PTAとして、文部科学大臣表彰をいただきました。これからも、子どもたちのために活動を継続します。



【ノーメディアに関するアンケート集計】



【ノーメディアに関するポスター入賞作品】

輝け！社会教育



優れた「地域による学校支援活動」
文部科学大臣表彰

さくら子ども教室の活動紹介（相馬市）

さくら子ども教室 田中 幸子 氏

このたび文部科学大臣表彰を受賞し大変に嬉しく思います。

さくら子ども教室は、平成16年に始まり平成28年で開始から13年目を迎えることができました。この間、東日本大震災が起こりこの年の教室開設が心配されましたが、学校・保護者・教育委員会、そしてスタッフの協力もあり、遅れはしましたがなんとか開設することができました。

さくら子ども教室の活動は、毎週火・水・木の週3日と月2回の土曜教室が基本です。平日の活動は、最初にその日の宿題を済ませてから体育館や多目的ホールでなわとび・サッカー・バドミントン・昔遊びなどを行います。また夏休みなどの長期休業を利用し、親子で市外の動

物園に行ったり、季節に応じた流しそうめんやもちつきなどのイベントを行ったりもします。

保護者との交流も定期的に行っていて、保護者会を開催し保護者とスタッフの連携を図っています。保護者会では、保護者の皆さんにとってのさくら子ども教室の必要性を直接肌で感じることができます。これからも子どもたちが放課後に安心安全に活動できる「居場所づくり」の提供を目指し活動していきたいです。



【下校の様子】



【絵手紙教室】

優れた「地域による学校支援活動」
文部科学大臣表彰

田村市学校支援地域本部滝根地域教育協議会の活動紹介

田村市学校支援地域本部滝根地域教育協議会

この度、平成27年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞させていただきました。これもひとえに、学校支援ボランティアをはじめ関係者の皆様のご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

田村市学校支援地域本部滝根地域教育協議会は、平成23年度に立ち上げとなり、コーディネーターやボランティアの方々のご協力により活動を続け、平成27年度は延べ500回を超える支援活動を実施しました。中でも、当初からおはなし会の皆様のご協力により、小学校での読み聞かせや図書の貸出などの支援を継続してきましたが、学校からは、図書室に行くのを楽しみにする子どもが増えた、読み聞か

せで集中力が高まり心も豊かに育ってきているように感じる、といった声をいただいています。また、中学校での部活動支援や、幼稚園での園行事支援、除草・剪定作業など、幅広い支援を継続的に実施しています。

平成28年度は3つの小学校が統合となりますが、今後も一層充実した活動となるよう、関係者一同努力して参りますので、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。



【図書の貸し出し】



【読み聞かせ】

輝け！社会教育



優れた「地域による学校支援活動」
文部科学大臣表彰

げんき山クラブの活動紹介（南会津町）

げんき山クラブ

げんき山クラブは、南郷地域に二つあった放課後子ども教室が小学校統合時に一緒になり誕生しました。二つの子ども教室の良さを引き継ぎながら、更に活動の充実を図ろうと指導員が一丸となり工夫しながら活動を続けています。

特に、多くの時間を使って力を入れてきたことが畑での活動です。植え付けや収穫し、食べるという活動を発展させ、畑に関連する様々な活動に取り組んできました。例えば、草むしりなどの畑の管理をとおして、子ども達が発想した自然の中での遊びができます。また収穫前の作物が鳥獣被害にあわないようにと、子ども達の独創性にまかせた「かかし」も作りました。そして、収穫した野菜を袋詰めして一輪車に乗

せ、リーダーを中心として地域の方に販売して歩く「野菜の販売体験」では、子ども達の主体性・協調性が発揮されます。いずれも地域の協力や温かい見守りの中で活動ができ、何といっても素晴らしい自然の中で活動できる喜びを子ども達も感じています。

子ども達が地域の良さを感じ取り、この地域をずっと大好きでいてほしい。そんな思いのもと、今後も学校・地域と連携しながら活動の幅を広げていきたいと思えます。



【野菜の販売体験】



【げんき山クラブ参加者】

子どもの読書活動優秀実践図書館・
個人に対する文部科学大臣表彰

喜多方市立図書館

喜多方市立図書館は、設置 103 年の歴史ある図書館です。平成 22 年度から指定管理者として(株)図書館流通センターが運営しています。昨年は、本館を利用される皆様をはじめ、関係各所よりいただきました御支援、御指導により、文部科学省から「子どもの読書活動優秀実践図書館」として表彰していただきました。

図書館は赤ちゃんからお年寄りまで一生涯を通して利用できる生涯学習の場です。そのため、本館では常に利用される方の視点に立ち、各年齢層に応じた図書の選書や提供、催し物を開催しています。

本館では、幼少期から図書館を身近に感じてもらうため、赤ちゃんを対象とした「ブックスタート」や、お子様の大切なぬいぐるみをお預かりし、夜の図書館の様子を疑似体験する「ぬ

いぐるみのおとまり会」などの取組を行っています。また、「郷土を知る講座」や日本の染型紙の一つである「会津型」について学ぶ講座を開催するなど、喜多方の地域資源や歴史、文化について学べる講座も開催しています。

知の宝庫である図書館。問題解決の場でもあり、知りたいことを追求できる場でもあります。今後も地域にとってなくてはならない生活の場としての図書館を目指してスタッフ一同取り組んで参ります。



【ぬいぐるみのおとまり会】



【ブックスタート】

輝け！社会教育

子どもの読書活動優秀実践図書館
個人に対する文部科学大臣表彰



金田 和枝 氏（二本松市）

この度、このような表彰を受けましたこと、誠に光栄に存じます。

これには、岩代図書館の職員の皆様はじめ多くの方々のお力添えのありましたこと深く感謝いたしております。「もともと子どもが好きでお話をきかせたい」こんな気持ちが、小学校に勤務してからの童話の語り聞かせ、本の読みきかせ読書のすすめへと進んでいきました。

51歳で退職、自宅で文庫活動、図書館のお話会のメンバーに加わり、手作り紙芝居、エプロンシアターなどでお話を伝えました。子どもたちの真剣な瞳に私は心からの喜びを感じました。しかし、あの3月11日で私の活動はピタリと止まりました。その後は、日本児童文学協会福島支部で同人誌活動でこの震災を伝え

ようと筆を執りました。

そして、2年後突然襲ったリウマチという難病のため今は施設にお世話になる身となっております。



ここに来まして、多くの高齢者の方々がその人生にたくさんの尊い経験をされておいでの話を知ることができました。私はこれを子どもたちに楽しく優しく伝えてあげたいと思いました。今回栄えある表彰をいただきましたのを折に、子どもたちに伝えるために、再び筆を執ろうと思っております。ありがとうございました。



平成27年度社会教育関係各種表彰受賞者

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	○喜多方市社会教育委員の会議議長 山崎信子 ○元郡山市社会教育委員の会議議長 國馬善郎	11月2日	文部科学大臣
優良公民館	○白河市中心公民館 ○須賀川市西袋公民館 ○猪苗代町体験交流館（学びいな）	3月3日	
優良PTA	○福島市立蓬萊中学校父母と教師の会 ○白河市立白河第二中学校PTA ○新地町立福田小学校父母と教師の会	11月19日	
優れた「地域による学校支援活動」	○さくら子ども教室（相馬市） ○田村市学校支援地域本部滝根地域教育協議会（田村市） ○げんき山クラブ（南会津町）	12月3日	
子どもの読書活動優秀実践 図書館・団体（個人）	○喜多方市立図書館（喜多方市） ○金田 和枝（二本松市）	4月23日	
社会教育功労者	○郡山市婦人団体協議会会長 小林清美 ○前白河市社会教育委員 鈴木きよ子 ○ボーイスカウト福島連盟副連盟長 工藤信行 ○一般財団法人福島県婦人団体連合会 常務理事・事務局長 瀧本チイ	11月2日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	1 団体 ○伊達市立五十沢小学校PTA ○田村市立大越小学校父母と教師の会 2 施設 ○福島市松川学習センター ○郡山市高瀬地域公民館 ○南会津町図書館	11月2日	
全国社会教育委員連合	○双葉地区社会教育委員連絡協議会長 岡田常雄 ○相馬地区社会教育委員連絡協議会長 大場盛子	10月8日	一般社団法人全国社会教育連合会会長
日本PTA全国協議会	1 団体 ○福島市立福島第一中学校父母と教師の会 ○いわき市立小名浜第二小学校父母と教師の会 2 個人 ○福島県PTA連合会前副会長 山岸 波 ○福島県PTA連合会前事務局長 古内利勝	11月19日	（公社）日本PTA全国協議会会長
東北地区 社会教育委員連絡協議会	○元郡山市社会教育委員の会議副議長 小林清美 ○社会教育委員耶麻地方連絡協議会副会長 伊藤尊仁 ○いわき市社会教育委員 大平健次	10月1日	東北地区社会教育委員連絡協議会

平成28年度福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
<p>○ホジェル・メロ氏講演会 （ブラジルの絵本作家。2014年に国際アンデルセン賞を授賞） 平成28年7月27日（水）</p> <p>○片山善博氏講演会 平成28年11月開催予定</p> <p>○ふくしまを知る連続講座（5回） 平成28年6月～12月開催予定</p> <p>○県内文化施設による移動展示（3回） 平成28年6月～12月に開催予定</p> <p>※日時・テーマ等が決まりましたら、随時お知らせしますので、当館ホームページ等でご確認ください。</p>	<p>○フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち展 平成28年4月6日（水）～5月8日（日）</p> <p>○館蔵村山津見神社天井画 復元模写プロジェクト展 平成28年5月28日（土）～7月3日（日）</p> <p>○エドワード・ゴッリーの世界展 平成28年7月16日（土）～9月28日（日）</p> <p>○被災地からの発信・ふくしま3.11以降を描く展 平成28年9月10日（土）～10月10日（月）</p> <p>○浮世絵 美の色彩展 平成28年10月29日（土）～12月18日（日）</p> <p>○シリーズGallery F2016 コレクション再発見展 平成28年1月21日（土）～3月20日（月）</p>	<p>○若松城を俯瞰した男-大須賀清光の画業と蕃付-(仮称) 平成28年4月23日（土）～6月12日（日）</p> <p>○南極の自然と南極観測（仮称） 平成28年7月16日（土）～8月21日（日）（予定）</p> <p>○新たな国民のたから-文化庁購入文化財展- 平成28年9月3日（土）～9月30日（金）（予定）</p> <p>○みんなの県立博物館展（仮称） 平成28年10月15日（土）～11月23日（水）（予定）</p>	<p>○郡山自然の家オープンデー 平成28年9月11日（日）</p> <p>○会津自然の家オープンデー 平成28年5月29日（日）</p> <p>○いわき自然の家オープンデー 平成28年5月22日（日）</p> <p>詳しくは各自然の家ホームページをご覧ください。</p>

編集後記

本年度336号のテーマは「新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成」です。平成27年度からの新規事業「子どもがふみだすふくしま復興体験応援事業」にスポットを当て、子どもたちによる確かな復興の歩みを感じていただければと特集いたしました。社会教育課では、平成28年度も引き続き子どもたちの「復興に貢献しようという想い」を高めていくとともに、子どもたちが主体的に復興に寄与する社会体験活動を支援してまいります。

最後に、日々御活躍されている方々から、お忙しい中、第336号「社会教育」に御執筆いただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層活躍されることをお祈りいたします。

平成28年8月1日発行

社会教育 No. 336

編集 社会教育課

発行 福島市杉妻町2-16

福島県教育委員会